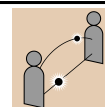


言葉とコミュニケーション



京都大学大学院医学研究科 山根 寛
 Hiroshi Yamane ; OTR, PhD
 Human Health Science Graduate School of Medicine Kyoto University

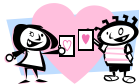
コミュニケーションの目的と機能



動物はなぜコミュニケーションするのか？
 人間はなぜコミュニケーションするのか？ 動物と同じ？

動物に共通

共通の危機の伝達
 自分や群れのテリトリーの防衛
 協同作業に向けての場所や方向の伝達
 求愛から交尾のプロセスの効率・効果
 群れ（家族を含む）のつながりの維持
 同種集団の社会的秩序を保つ順位確認



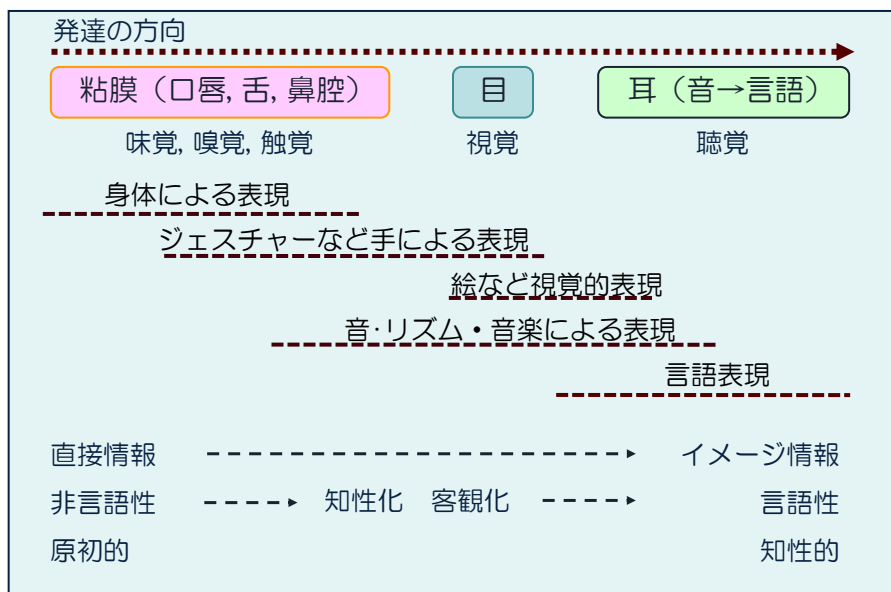
ヒトに特有

相手と交渉をする
 自己提示
 思考の整理
 （自分とのコミュニケーション）
 文化の継承

コミュニケーションの媒介

言語体系	音声言語（話しことば）	直接的会話	直接会ってする対面会話
		間接的会話	電話などの機器を介した会話
	文字言語（書きことば）	筆談、文字ボード、電子メール、指文字など	
	記号（表象されたことば）	モールス符号、点字、手話、シンボル、手旗など	
非言語体系	パラ言語（ことばの表情）	大小、強弱、高低、速さと変化 間合い、テンポと変化、リズム、抑揚 語気(語調) ことばの量 ことばの連続性(流ちょう性) ことばの肌理	
	身体表象（からだの表情）	身体的特徴 身体的概観 身体加工 顔 目 動作・行動 接触行為 自律神経系	体型、体格、容姿、頭髪、体臭、肌の色、匂いなど 年齢、性別、体型、背丈、皮膚、髪など 化粧、髪型、整形、タトゥーなど 顔立ち、表情 視線、アイコンタクト、まなざし 姿勢、身振り手振り、態度、動作、行動 なでる、打つ、抱く、触れる、握手など 瞳孔、心拍、血圧、消化系、排尿、呼吸、発汗などの変化
	物（拡張した自我）	身につける物 創作物	服装、装身具、匂い 所有物、使用物（道具、材料、物品など） 絵画、音楽、手工芸品など

情報入手器官の発達とコミュニケーション

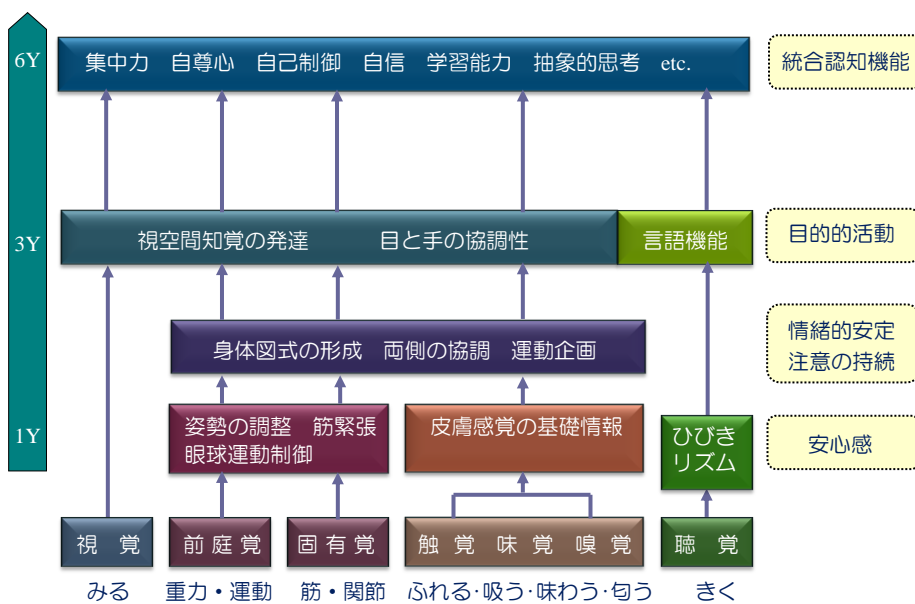


情報入手器官の発達とコミュニケーション

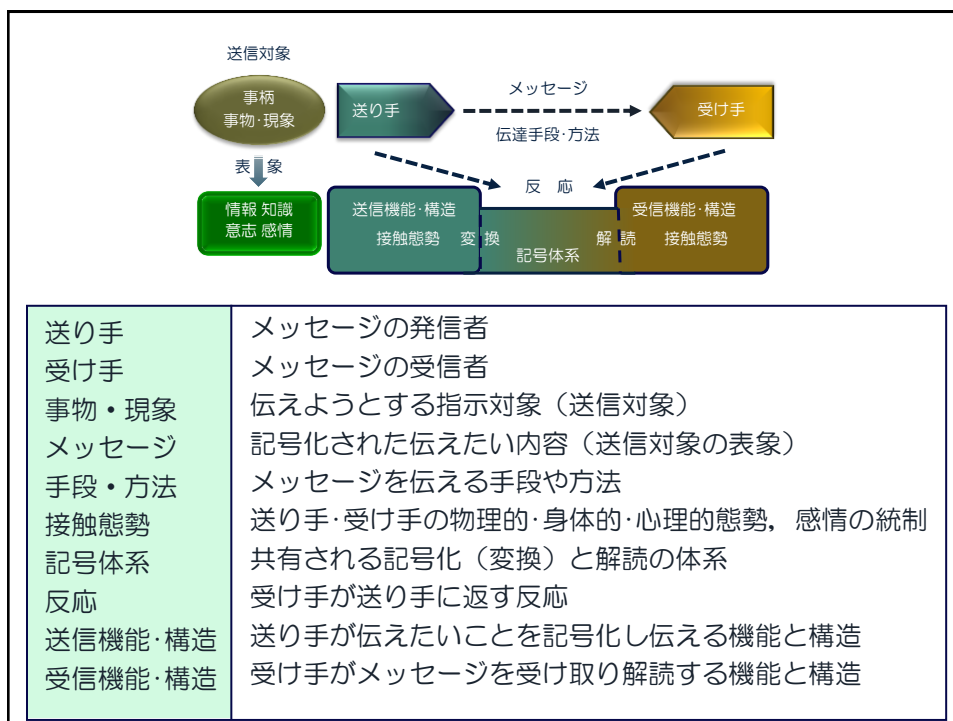
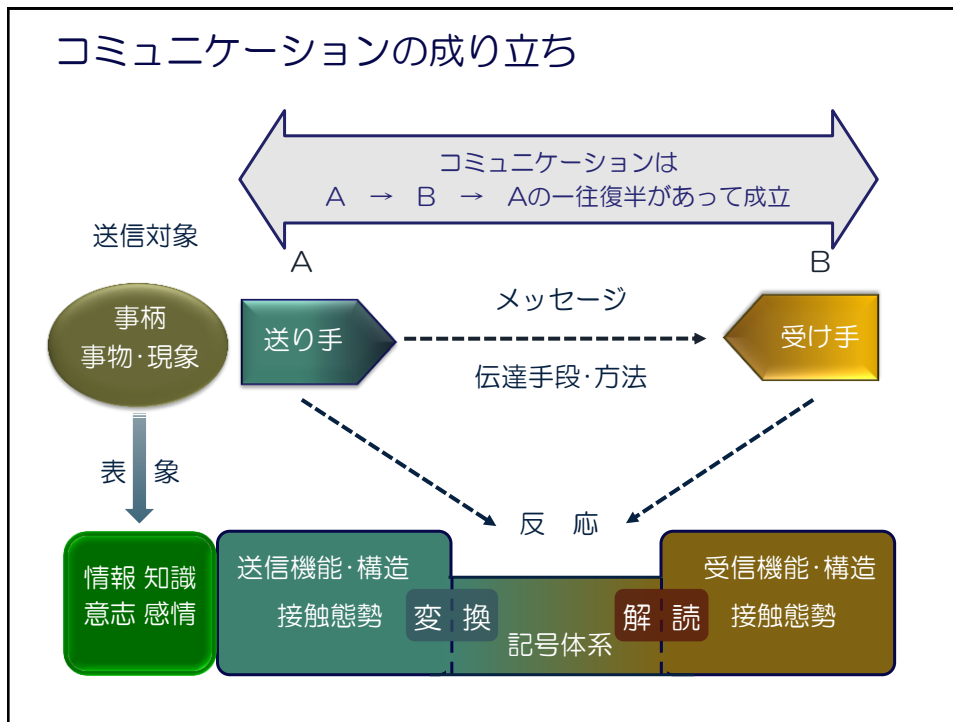
この人たちとはどのような手段でコミュニケーションできるでしょう？

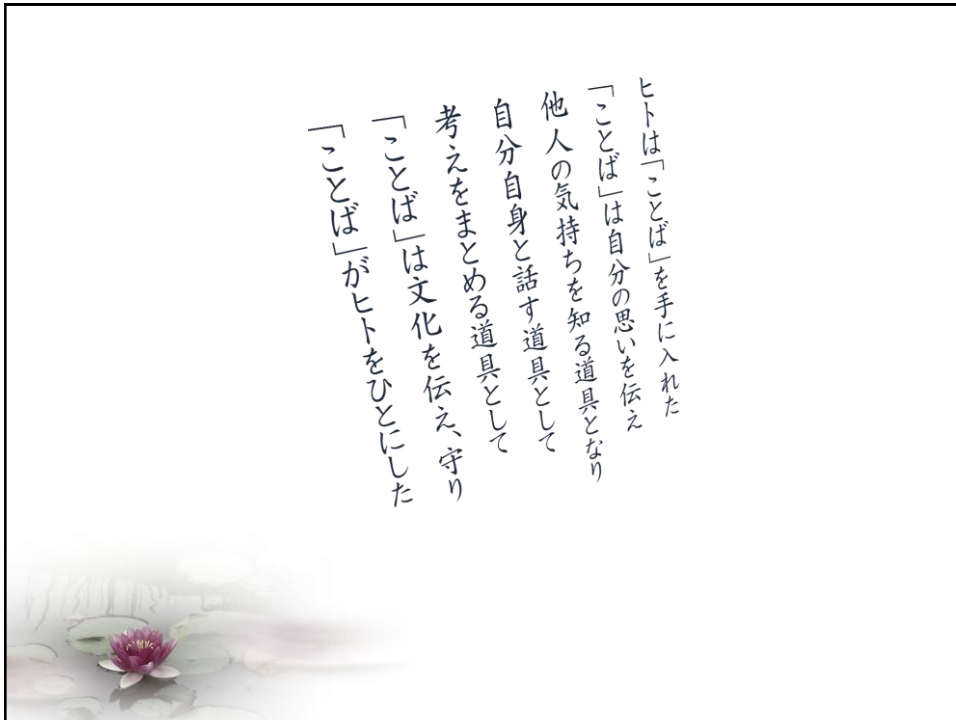
- 1歳までの赤ちゃん
- 知的障害がある子どもたち
- 重度の脳性麻痺の子どもたち（知的障害はない）
- 認知症の中等度以上の人たち
- 作為体験がある統合失調症

統合認知機能の発達とコミュニケーション (Ayes,1979改変)



コミュニケーションの成り立ち





言語コミュニケーションの成りたち



食べる

梅干しやレモンを食べて、すっぱい
という体験（味覚による直接情報）
身体感覚情報として蓄積



見る, 食べる

視覚情報と味覚体験（身体感覚情報）
の関連づけ



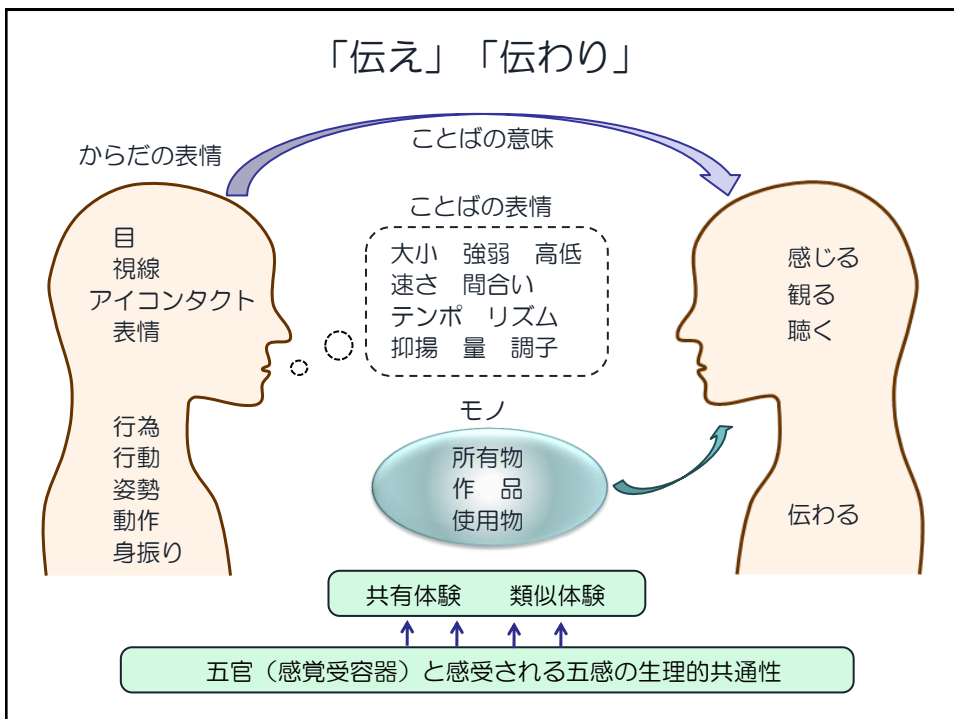
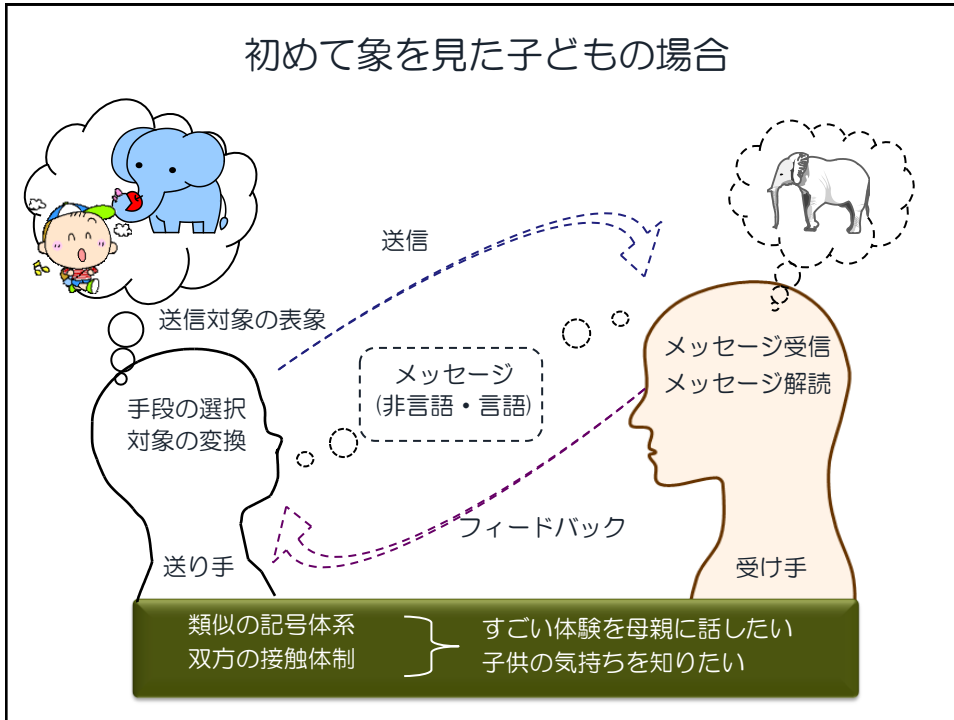
見る

視覚情報でイメージとして味覚体験
（身体感覚情報）が再現



聞く

言語情報でイメージとして味覚情報
（身体感覚情報）が再現

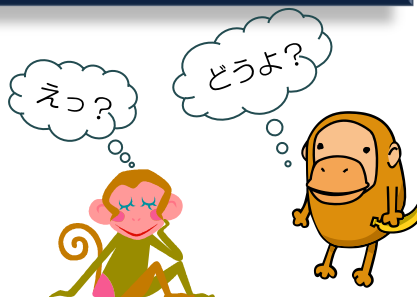


コミュニケーションの基本

こころの理論 Theory of Mind

対象の考えや感情などこころの動きを推測したり、
対象が自分とは異なる思いを持っているということ
を理解したりする機能

共同注視：9か月
表象：1歳頃
振り：1歳半頃
騙し：4歳まで



ピアールのページ

ZIZI-YAMAの知の森へどうぞ
ZIZI-YAMAで検索
ZIZI-YAMA WORLD2をクリック

